

「女性が変わる未来の農業推進事業」先進地視察研修会を開催しました

○実施日 令和8年9月1日（火）

○場 所 宮田村及び駒ヶ根市

○内 容

当センターでは、女性農業者の活動支援や女性が働きやすい農業環境づくり、地域リーダーとして活躍できる女性農業者の育成を進めるための取組を行っています。

この取組の一つとして、「女性が変わる未来の農業推進事業」を活用し、木曽地域のリーダーとなる女性農業者育成のための先進地視察研修を上伊那地域で行いました。

まず、宮田村の「食どころ」で吉澤小百合代表にその精力的な活動について伺いました。

取組として、宮田村の旬の農産物をより多く学校給食に届けるため、地元農家が中心になって「宮田学校給食を育てる会」（2003年～）があります。吉澤代表が事務局を務め、会員の収穫予定を取りまとめて学校・保育園からの発注に従い会員に納入割り当てをします。10軒以上の生産者が協力することで持続的に食材を納入することが可能になりました。

また、「加工研究グループ食どころ」（2012年～）では、宮田村の農産物を規格外・穫れすぎたものも残らず食べるため、加工食品の製造を開始。収穫したトマトや玉ねぎ、りんごなど旬の野菜などを使いジュースやドレッシング、たれなどを製造販売し農家と消費者との橋渡しをしています。カットさつまいもや野菜、りんごのピューレを冷凍することで年間通じて学校給食へ提供が可能になりました。

さらに、「キッチン食どころ」（2024年～）は食どころのレストランで、宮田村産野菜をふんだんに使った月替わりのランチ「旬彩定食」やお弁当を提供します。レストランは地域の方々の「つどいの場」の役割も果たしています（完全予約制）。

昼食の後、上伊那発祥の薬酒「養命酒」の製造工程を見学するため駒ヶ根市の「養命酒ミュージアム 駒ヶ根」の工場見学を行いました。

有名な養命酒にも使われる「生薬」は、植物や動物、鉱物などを乾燥などごく簡単な加工をしたものです。国内で使われる8割ほどが輸入されているそうですが、国内で原料を確保するため「薬用作物」の栽培について製薬会社が自治体と提携し栽培を進めたり、使われていない農地に地域の方がシャクヤクを栽培するなどの動きがあります。参加者は養命酒の原料となる植物の栽培について興味深く見学をしました。



写真1：「食どころ」視察



写真2：「養命酒ミュージアム」見学